

乳幼児期における親子のスキンシップが親子関係に及ぼす影響 ーベビースイミングに着目してー

瀧川侑香（競技スポーツ学科 コーチングコース）
指導教員 白木孝尚

キーワード：スイミング，親子，乳児，幼児，スキンシップ

1. 緒言

近年、ひとり親や共働きの増加など、核家族形態の家族が標準的家庭と言えないほど家族の形態が多様化している。その中でかつては家族の責任で果たされてきた育児が、現代では家族の問題ではなく社会・地域の重要な福祉問題となっている。

子どもは衣食住の世話だけでは健康に成長することはできず、子どもの健康な発達には、心身両面での栄養が不可欠である。心の栄養には親子でのスキンシップが有効であり、栄養の不足する環境では、身体、情緒、知性、社会性に発達的な問題を引き起こす。そのため、親子の関係をより良いものにしていくためには、乳幼児期の親子間の関わり方が重要である¹⁾。

ベビースイミングは陸上での活動と異なり、水中での活動であるため、歩くことさえできない乳幼児は親の支えが必須となる。そのため子は親に強い信頼をおくこととなる。また、肌と肌が触れ合い、親と子が密着した状態で活動するベビースイミングでは、必然的にスキンシップを多くとることになる。

以上のことから、ベビースイミングは親子の関係を形成する際に重要な役割を果たすことができると考えられるが、ベビースイミングに関しての研究はほとんど存在しない。

そこで本研究では、近年多くのスイミングクラブで実施されるようになったベビースイミングに着目し、乳幼児期におけるベビースイミングへの参加が、その後の親子間の関係に与える影響について調査・分析することを目的とした。

2. 研究方法

本研究は京都市内の小学校に通う子どもの保護者を対象とし、ベビースイミングの経験の有無、親子の関係に関するアンケート調査を実施した。

3. 結果と考察

アンケート結果から、対話の内容についての質問項目でベビースイミング経験無群と比較しベビースイミング経験有群において、積極的に自分のことを話す子どもの割合が高かった。

子供から信頼されているかの質問項目においても、ベビースイミング経験有群は信頼されていると回答した割合が高かった。この2つの結果から、ベビースイミング経験有群の子どもはベビースイミング経験無群と比較して日常生活において親を信頼し、安心して自身のことを話していることが推察された。また、ベビースイミング経験有群の子どもは「一人でお風呂に入る」「一人で寝る」と回答した割合がベビースイミング経験無群と比較して高かった。

ベビースイミング経験無群において、誕生日や母（父）の日のプレゼントに関する質問項目では、「毎年もらう」と回答した割合がベビースイミング経験有群よりも高かった。また、反抗に関する質問において、ベビースイミング経験無群で「よく反抗される」という回答が20%であった。これらのことから、ベビースイミング経験無群の子どもは、自身を親に認めて欲しいという承認欲求が強いことが推察された。また、乳幼児期にベビースイミングを経験することによって、自立を促すことに影響を与える可能性があることが示唆された。

4. まとめ

乳幼児期にベビースイミングへの参加することで、子どもの親に対する信頼度に影響を与える可能性があることが考えられた。

今回ベビースイミング経験有群のデータが少なく、親子の関係に関して明確な傾向をはっきり示すことができなかった。今後の課題としては、ベビースイミング経験のある親子のデータを多く集めることが必要であり、ベビースイミングを実施しているスイミングクラブに協力を依頼し、アンケートを依頼することが必要である。また、両群の親子が日常生活で行っているスキンシップについての質問項目の見直しと追加が必要である。

引用・参考文献

- (1) 藤永保（1998），乳児教育を考える，岩波新書